挿し木でダイダイ育苗

シトライ・カンパニーと静大

ブランド化へ研究

熱海市の特産品ダイダイのブランド化に向け、地元生産者と静岡大による共同研究の報告会が27日、渚町の熱海商工会議所で開かれた。これまであまり行われてこなかった挿し木による育苗の可能性が示され、形質の安定化につながるという。

同大農学部園芸イノベーション学研究室と、生産者のシトライ・カンパニー（岡野谷伸一郎代表）の共同研究で「地域連携応援プロジェクト」の一環。プロジェクトリーダーの厚味莉歩さん（3年）が発表した。

価格の低下や収量の減少、担い手不足などダイダイ農家の課題を解決するため、研究室の学生9人が昨年4月から研究を始めた。熱海にある岡野谷代表のダイダイ畑を何度も訪れ、同大のほ場で苗を育てるため、挿し木のサンプルを集めるなど、調査を進めてきた。

「用途対応でき価値向上」

研究ではダイダイの育苗法を調べ、挿し木による苗の育成ができると明らかにした。カラタチの苗木と種から育てた「実生」の苗の比較もし、果実の糖や酸度、果皮の色、ポリフェノールの含有量など特徴の違いを示した。

厚味さんは「用途に応じた形質を持つ木を増やすことができ、熱海ダイダイの価値向上につながる」と話した。

岡野谷代表によると、JAふじ伊豆あいから伊豆地区で10年前に約300軒あったダイダイ農家は現在80軒ほどに減っていて、出荷量は例年100トンほどだが、昨年は35トン減少したという。岡野谷代表は「収穫の簡略化と価格の向上がなければ、特産品は衰退してしまう。研究はダイダイ栽培が次世代や未来につながる第一歩になる」と語った。

育てた苗の譲渡会を5月に予定するという。

ダイダイに関する研究成果を発表する厚味さん＝熱海市渚町の熱海商工会議所

熱海新聞 2023 年 3 月 28 日掲載（伊豆新聞本社総務局許諾済み）